



調査依頼⑦

# 元ダンサーのあの人が和歌山で農業？ の謎に迫る

「安心な物をあなたの口に届けたいやよし」をコンセプトに無農薬栽培や若手の育成に取り組むグリーンジャンクション。農業の可能性拡大に積極的に取り組んでいる。

まろ農園で育てているのはかんやハツサク、タマネギなどを中心に数種。現在はネットを中心に販売している。また「ReBORN」でも情報を発信しているのでぜひチェックを。



グリーンジャンクションのメンバーと共に無縁だった農業に取り組んでいる内山磨我。それまで来たことがなかった和歌山の第一印象は「のどかな〜」。また夜景の美しさにも感動したんだとか。



田村さんの指導を受けて植付作業中。「今回、タマネギの植え付けは初めて。これがどんな風になるのか楽しみです」と嬉しそうに話してくれた。

音楽、芝居、農業とさまざまな分野で活躍する内山磨我。3月にはアルバム「FAKE」をリリース予定。熱い感情を込めた14曲全ての作詞作曲を手掛けたという。現在収録曲の中から「Jo-shiki」「ReBORN」の2曲をiTunesで先行配信。



農家の高齢化が進む中、グリーンジャンクションのメンバーは大半が19歳。「自分たちで育てた作物を収穫した瞬間が嬉しい」「農業は準備がしんどいけれど、できた時の嬉しさはひとしお」「体力があるけれど、楽しいもって知識を深めたい」「最初はただのバイトの1つだったけど、いろんなことに挑戦したくなった。将来は農業をしたい」とみんな意欲的。



歌手で俳優のマロ、こと内山磨我が和歌山で農業!? という話を聞き付け訪れたのは紀の川市某所。東京出身の彼がいるわけない……と半信半疑で訪れたところ、たしかにあった「まろ農園」！そして「本人がタマネギの苗の植付をしておるではないですか！ さそく取材させてもらっていいよ」。そもそも「元はダンサー」、そして現在も歌や芝居を本業としながら、なぜ農業？ そしてなぜ和歌山に？

聞くとも報道されていた歌姫との破局後、一時的にホームレス状態で過ごしたという彼。「仕事も家もなくなった時に、食だけはちゃんとしよう」と考えるようになったんです。食べたものは如実に思考回路に結びつく。ファーストフードや農業は害がないと言われても、体にいいものではない。そう考えた頃、共通の知人を介して出会ったのが、紀の川市で無農薬栽培に取り組んでいる農業団体グリーンジャンクションの代表、田村さん。すぐに意気投合し、田村さんの協力で昨春に農園を開くこととなったというのが、和歌山に農園を開いたいきさつだった。

月1、2回しか来られないものの、収穫はもちろん、マルチ敷きや苗植えなどを通して真摯に農業と向き合う彼をグリーンジャンクションがサポートしている。「やるならゼロか百。だから**ネタ作り**じゃなく**本気で**です」と話すところ、「高糖度のみかんの作り方」や「剪定の方法」なんて本を読みながらレコーディングに臨むことも。自身の食生活もかつおぶしを削ってだしを取ったり、藁から納豆を作る徹底ぶりなのだ。10歳から続けてきたダンスの世界と離れ、農業、音楽、芝居と大きく人生の方向転換を図ったマロ。ツールは違えど「発信したい」ことを発信し、やりたいことをやるべき」というメッセージに変わりはなくという。「農業に対する**消費者の意識改革**をしたいし、**海外との農業交流**にも興味がある」。そう話す彼のアツい想いが和歌山から世界に発信されていく日もそう遠くないのかも？



国道42号を走っての看板。また、植物  
ブルーベリーやアヤメの好きという店交配させ、新種も

まろ農園 <http://www.maro-farm.asia>

GREEN JUNCTION 紀の川市荒見403-3 ☎080-5632-4625 FAX 0736-73-5327  
グリーンジャンクション